

米空母母港化抗議！原子力空母 G・ワシントンの配備撤回を求める

10.3 全国集会アピール

米海軍が横須賀基地に空母ミッドウェーを配備したのは 1973 年 10 月、当時政府から、数年程度に限ると言わされた「横須賀の空母の母港」は 50 年を超えていました。

2008 年からは最も危険な、原子力を動力とする空母となり、昨年、原子力空母ジョージ・ワシントンに交替しました。米国外で唯一の横須賀の空母母港は永続化され、横須賀基地はまさに巨大軍港として、世界各地の戦争への出撃基地となっています。

これまで、出航が数回にわたり延期されるなど、原子力空母の「動力系装備の不調」との情報もあり、日米両政府とも、原子炉の安全性や、原子力災害が起きた際の国民の命には全く無関心です。

横須賀にある米海軍第 7 艦隊の存在は、米軍のアジア・中東戦略の中心であり、空母戦闘団の役割は、湾岸戦争、イラク、アフガン侵攻などで空母を常時展開する中心的な役割をもち、トマホークミサイルと空母艦載機による爆撃で、膨大な殺戮を繰り返しています。

昨年のジョージ・ワシントンへの空母交替で、新たに米海軍のオスプレイ CMV 22 が、日本で初めて米軍岩国基地に配備されました。オスプレイは各地で事故を繰り返し、その都度運用休止を繰り返しており、最も危険な輸送機です。

退陣を表明した石破首相は、米海軍横須賀基地に理由なく寄港した英海軍空母「プリンス・オブ・ウェールズ」に初めて乗艦し「日英の防衛協力はかつてないレベルに達している」と発言しました。また首相は、海上自衛隊横須賀基地で、事実上の空母として甲板が改修された護衛艦「かが」にも乗艦しています。米軍、英国やノルウェー軍艦が、海上自衛隊との共同訓練を行い、横須賀は軍事ハブ港として着々と既成事実化されており、米国の判断で始めた戦争に、日本が巻き込まれるということに繋がります。

また、2022 年に閣議決定した、敵基地攻撃能力を明記した安保 3 文書に基づき、毎年米製兵器を爆買いし、自衛隊横須賀基地に敵基地攻撃能力を持つ巡航ミサイル・トマホークの運用訓練も始まっています。

憲法に基づいて専守防衛に徹し、軍事大国とはならないとした戦後日本の防衛政策が、根底から大きく揺らいでいます。

「00 年経っても空母の母港」「海目イージス艦からトマホーク発射」横須賀が将来このような事態に至りかねない現状を、何としても打開しなければなりません。長年にわたり艦載機の爆音解消を求めてきた県央の闘い、欠陥機オスプレイの低空飛行と訓練反対など、首都圏の仲間との連携を強め、県土の 15% も基地を押し付けられながら、不当弾圧を受け、日米地位協定の不条理などに、不屈に対峙する沖縄の闘いとも共闘し、全国的な運動に発展させなければなりません。

このように大変厳しい状況の中、私たちは、ここ横須賀ヴェルニー公園に結集しました。

改めて、米原子力空母の母港撤回、「安保関連法」の廃止、「敵基地攻撃力」などの自衛隊強化反対を確認し、戦争の出来る国づくりを阻止し、平和憲法を守るため、断固、全力を挙げて闘っていきましょう。

2025 年 10 月 3 日集会参加者一同